

# 地域住民のシビックプライド醸成に向けた広報活動 ～浅野川大橋・犀川大橋 百寿会における 地域と連携した取り組み～

影山 奈央<sup>1</sup>・水野 力斗<sup>1</sup>・中村 圭弘<sup>1</sup>・櫻井 彰<sup>1</sup>

<sup>1</sup>金沢河川国道事務所 計画課 (〒920-8648 石川県金沢市西念4丁目23番5号 )

100年にわたり多くの人々の生活と地域の発展を支えてきた浅野川大橋・犀川大橋の100周年を祝うと共に永く後世に伝えるために「浅野川大橋・犀川大橋 百寿会」を設立し、地域と一体となって実施してきた情報発信やイベント等の取組について報告する。

キーワード 浅野川大橋、犀川大橋、100周年、地域連携、賑わい創出、広報、SNS

## 1. はじめに

金沢市街地には、浅野川と犀川という2本の川が流れており、前者は「女川」、後者は「男川」という愛称で金沢市民に親しまれている。2本の川にかかる橋の中で、加賀藩祖である前田利家が1594年に架橋したといわれるのが、初代の浅野川大橋と犀川大橋である。最初の架橋から洪水や氾濫等により幾度も架け替えが行われており、浅野川大橋は1922年に、犀川大橋は1924年に架け替えられたものが、現在もその姿を残している。それぞれ国道159号、157号上にあり、金沢河川国道事務所にて管理している。人物や物流を支え続けてきた2つの橋は、2000年に、その価値が認められ、2橋とも国の登録有形文化財に指定された。

本稿では、金沢河川国道事務所が地域と一体となって実施してきた、100歳を迎える2つの橋に関する情報発信やイベント等の取組について報告する。

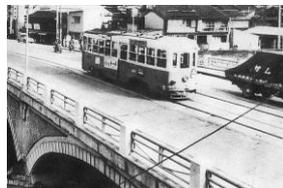


写真-1 100年前の  
浅野川大橋



写真-2 100年前の  
犀川大橋



写真-3 現在の浅野川大橋



写真-4 現在の犀川大橋

## 2. 「浅野川大橋・犀川大橋 百寿会」の紹介

### (1) 百寿会の設立

金沢河川国道事務所は、浅野川大橋、犀川大橋における100歳のお祝い（以下百寿（ももじゅ）という）の取組を進めるため、2022年5月、金沢河川国道事務所副所長を会長とし、県や市の行政機関のほか、12地区に及ぶ地元町会連合会やまちづくり組織、地域団体等を会員とした「浅野川大橋・犀川大橋 百寿会」を設立した。2022年度から2024年度の3カ年を設立期間とし、情報発信やイベントに関する事項についての協議を行うことを規約としている。百寿会での活動を通し、大正、昭和、平成、令和の4つの時代にわたり多くの人々の生活と地域の発展を支えてきた2つの橋に思いを馳せ、その功労を称えるとともに、地域住民のシビックプライドを醸成し、永く後世に伝えることが目的である。

### (2) 会議の開催

前述した目的達成のため、2022年度は5月、7月、9月、2月の計4回の会議を開催し、主に浅野川大橋の百寿について、会員による意見交換が活発に行われた。

会議は毎回記者発表を行い、原則公開の形をとることで、テレビや新聞等による報道を促している。第1回の百寿会では、新聞やテレビ等、合わせて6つの報道機関が報道を行い、この開かれた取組が、百寿会会員以外の地域住民へ、浅野川大橋・犀川大橋百寿を幅広く周知することにつながったといえる。

2023年度も、6月28日に第5回となる百寿会を開催し、主に2024年7月に迎える犀川大橋の百寿に向けて、イベントアイデア等に関する意見交換を行った。地元団体からは、歴史を踏まえたアイデアなど周辺地域で生活して

いるからこそその意見が多数出た。



写真-5 第5回百寿会の様子

あり、2つの橋に対してさらなる関心につながるよう回答している。



写真-6 一新した100周年特設サイト

### 3. 情報発信

#### (1) ロゴマークの作成

百寿会は、浅野川大橋・犀川大橋の百寿を広く内外にPRするとともに、その機運を高めていくために、ロゴマークを作成した。

デザインについては、加賀五彩を基に、浅野川大橋は「女川」の繊細さと茶屋街の艶やかさを表す臙脂（えんじ）色、犀川大橋は「男川」の力強さと鋼材の色彩を表す藍色、2つの橋を一体的に示す場合は臙脂色と藍色が混ざってできる古代紫色を基本色に、橋のシルエットを表現したものとしている。汎用性がある「横型」や「丸形」のロゴマークを準備することで、既存の資料や印刷物に入れやすくし、百寿の広いPRにつなげている。



図-1 ロゴマーク

#### (2) Webサイトの構築

情報発信の礎とするため、浅野川大橋・犀川大橋の既存サイトを一新し、2つの橋を統合的に情報発信するための特設サイトを構築した。サイト内容は、2つの橋の基本情報、過去の資料や写真、イベント情報や記録等のアーカイブ機能を中心としている。この際、スマートフォンでの閲覧を想定し、わかりやすくデザイン性の高い構成を意識した。

また、サイト内にお問い合わせフォームを設置し、2つの橋に関する地域住民や観光客等からの問い合わせに答えられるようにした。これまでに多数の問い合わせが

#### (3) パンフレット及びパネルの作成

浅野川大橋・犀川大橋について、百寿を記念してパンフレット及びパネルの作成を行った。パンフレットには、時代の変遷や特徴等の基本情報に加え、「私と橋」と題して100歳を迎える2つの橋への想いを地域住民にインタビューし、掲載した。

パネルは、パンフレットをもとに作成し、各種イベント時に掲示することで、情報発信に利用している。

2023年度は、国道159号金沢東部環状道路における金沢市月浦町～神谷内町間の4車線化開通を控えた月浦トンネルの見学会において、トンネル内に浅野川大橋や犀川大橋のパネルを展示することで、多くの人に足を止めていただき、2つの橋の百寿について見学者へPRすることができた。



図-2 100周年パンフレット



写真-7 新トンネル見学会でのPR

### 4. 浅野川大橋百寿に関するイベントの実施

#### (1) 地域連携祝祭の実施

百寿会は、地域連携祝祭と題して浅野川大橋・犀川大橋百寿への機運を高めるため、各団体の実施するイベントに金沢河川国道事務所も積極的に参加し、百寿のPR等を実施してきた。

2022年10月4日には地域団体「金沢・浅の川園遊会」

の協力の下、「浅野川大橋清掃活動」を開催した。金沢河川国道事務所からは20人以上が参加し、地元住民とともに計70人以上で、歩道脇等の草刈りや高欄の水拭きを行った。当日の様子は、新聞やテレビ等で多く報道され、「立派な大きな橋で、大事にしよう」と愛着が湧く、「祖父より長生きしている浅野川大橋の清掃をお手伝いできて嬉しい」等、橋への好意的な声が多く確認できた。同月15日に開催された浅野川大橋百寿祭への機運を高めることにつながったといえる。



写真-8 清掃活動の様子

## (2) 各種コンテストの開催

百寿会として、浅野川沿線の住民だけでなく、多くの人に浅野川大橋の百寿を意識してもらい、多くの関わりや愛着を持ってもらうため、以下で紹介するような各種コンテストを企画した。どちらも広告用チラシを作成し、積極的なPRに努めた。



図-3 広告用チラシ

### a) フォトコンテスト

フォトコンテストは、テーマを「浅野川大橋への愛を令和の視点で写そう!」とし、2022年7月11日から10月31日までプロ・アマ問わずInstagramでの募集を行った。応募作品数は141点にのぼり、様々な角度、時間帯から浅野川大橋を切り取った各撮影者の思いが詰まった写真が多数集まった。また、このコンテストにおいては、Instagram公式アカウント「asanogawa.brige100」をフォローし、「#浅野川大橋100年」をつけることを応募条件とし、積極的なSNSの活用を意識した。

### b) 絵画コンテスト

絵画コンテストは、テーマを「浅野川大橋の好きな風景」とし、2022年7月11日から10月31日まで募集を行ったところ、応募作品数はジュニアの部で108点、学生・一般の部で31点であった。「この先も守り続けたい風景」

や「加賀友禅 燈ろう流し」など様々な角度から浅野川大橋への思いをのせた絵画が集まり、浅野川大橋が年齢に関係なく多くの地域住民から愛されていることが分かった。

### c) 特別展の開催

2022年12月15日～12月25日の間、「浅野川大橋百寿特別展」として、各種コンテストにおける表彰作品や浅野川大橋の歴史、浅野川大橋百寿祭当日の様子等の展示を金沢市立安江金箔工芸館にて行った。来場者数は約230人にのぼり、一大イベントであった浅野川大橋百寿祭が終わっても、浅野川大橋百寿への地域住民の関心が続いていることが確認できた。



写真-9 特別展の様子

## (3) 浅野川大橋百寿祭の実施

2022年10月15日（土）に浅野川大橋の百寿を祝う百寿祭を開催した。

事前の情報発信としては、広告用のチラシを作成し、地域に回覧を行った。また、チラシと併せて金沢河川国道事務所から記者発表も行った。



図-4 広告用チラシ



図-5 記者発表

当日は、9時から正午までの間、国道159号橋場交差点から東山交差点までの約450mを全面通行止めとした。全面通行止めでの開催は、百寿会でも大きく議論され、観光客への影響や時間帯、住民への周知方法等についてたくさんの意見や提案などを踏まえ開催に辿り着くことができた。これは、公開された百寿会を通して、このイベントに対し広く周知が進んだこともあり、警察や地域住民の大きな協力を得られた結果であると考えられる。

イベントは、10時から11時15分の間、「橋上での祝い」と題し、浅野川大橋橋上を歩行者天国として行う第1部と、11時45分～14時までの間「歴史と未来の体験」

と題して東山河岸緑地及び河川敷で行う第2部に分けて実施した。

第1部は百寿会の会員やイベント関係者に加え、浅野川大橋・犀川大橋100周年のHPから橋上での観覧者の一般公募も行った。

オープニングアクトとしては、金沢市立馬場小学校の生徒によるダンスの披露や金沢市消防団の分団による加賀鳶はしご登りなどが催された。その後、「100周年記念プレート」の除幕式を行い、これからの100年の安全・安心を祈念するとともに、市民の愛着を深めるため、100年前も実施した親子三世代渡り初めを現代版にアレンジした渡橋式を実施した。

浅野川大橋の両側や、第2部が行われた東山河岸緑地及び河川敷では、キッチンカー等による地域のお店の出店を募り賑わいを創出するとともに、金沢観光ボランティアの会「まいどさん」による橋とまちの生い立ちを巡る歴史ツアーを開催した。

浅野川大橋百寿祭は、地域住民や観光客等をあわせて約3,000人の来場があり、各地域団体の協力のもと盛大に浅野川大橋の百寿を祝うことができたとともに、一つの橋の魅力がこれだけの誘客やにぎわいを創出することにつながるということが確認できた。



写真-10 百寿祭当日の様子

## 5. 今後の展開

2024年には、犀川大橋が100歳を迎える。今年度は浅野川大橋から犀川大橋へ百寿のバトンタッチの1年となるため、浅野川大橋から続くこの盛り上がりを引き続き継続できるよう、金沢河川国道事務所としても情報発信や各地域のイベントへの参加・協力をさらに積極的に行っていきたいと考えている。

それに先立って、2023年7月2日には、百寿会の会員である「片町まちづくり会議」が主催した「犀川大橋橋みがき」に金沢河川国道事務所職員も参加し、地元ボランティア団体等とともに、計60人以上で橋を磨き上げた。このイベントについては、金沢河川国道事務所と「片町まちづくり会議」の連名で記者発表を行うことで事前

PRを行った。7月7日に行われた「水辺で乾杯」も併せて、2022年の浅野川大橋百寿の盛り上がりから、2024年の犀川大橋百寿に向けて多くの注目が集まるタイミングでの開催でもあったことから、多数の好意的な報道につながった。



写真-11 橋みがきの様子

2023年7月23日には101年目となった浅野川大橋において、次の100年に向けて浅野川大橋を大切に使い続けよう、地域団体「金沢・浅の川園遊会」主催で清掃活動が実施されたほか、第5回の百寿会では、犀川大橋の百寿とあわせて、犀川の水辺空間の利活用や、犀川と商店街を結ぶ動線なども考慮したまちづくりについて委員から議論が出た。

この機運を逃さぬよう、今後の具体的な取組として、四季を意識した犀川大橋のフォトコンテストやまちづくりシンポジウムの開催、金沢河川国道事務所が主体となった浅野川大橋から犀川大橋を巡るツアーの実施等、犀川大橋百寿を盛り上げる企画を検討中である。

## 6. おわりに

これまで、浅野川大橋・犀川大橋の百寿に関して、官民一体となって意見交換、イベントの開催、それら活動の幅広い情報発信を行ってきた。

これまでの取組を通して、地域住民に、自分自身が生活する地域のまちづくりに関わっているという意識が芽生え始め、シビックプライド醸成への第一歩を踏み出したことは、地域住民が主体となったイベントの開催や百寿会での委員の発言からも伝わってきており、百寿会の活動による成果が形として現れているといえる。今後さらなるシビックプライドの醸成を目指すためにも、2024年に開催を予定している犀川大橋百寿祭を成功させるとともに、その後も継続して地域と関わる必要不可欠と考える。

金沢河川国道事務所としても、今後、より一層積極的な広報活動により、たくさんの人へ浅野川大橋・犀川大橋の百寿をはじめとした地域の魅力について周知を図ることが求められている。

謝辞：「浅野川大橋・犀川大橋 百寿会」として活動していくにあたり、ご協力いただいている地域の皆様や関係各位に深く感謝申し上げます。